



地域医会だより

## 県央皮膚科医の会

平成25年度は県央皮膚科医の会としての活動を平成22年の5月以来3年ぶりに行うことができました。また、県央地域の中のうち、大和市では2回の講演会を開催いたしました。講演会は下記のとおり開催いたしました。

### ●第7回県央皮膚科医会

日 時：平成25年7月4日（木）

会 場：オークラフロンティアホテル海老名

テーマ：「高齢者のアトピー性皮膚炎」

講 師：東京都健康長寿医療センター皮膚科部長 種井良二先生

### ●第3回大和市皮膚科医会

日 時：平成25年5月18日（土）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：「接触蕁麻疹（症候群）」

講 師：昭和大学藤が丘病院皮膚科准教授 中田土起丈先生

### ●第4回大和市皮膚科医会

日 時：平成25年11月2日（土）

会 場：小田急ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：「ニキビ治療の最前線—ガイドラインに基づいた治療から最新の治療まで—」

講 師：実川皮膚科クリニック 実川久美子先生

（文責：矢口 厚）



地域医会だより

## 横浜市皮膚科医会

### 平成25年度の活動

①4月の例会では平成25年3月末に横浜市民病院および横浜南部済生会病院をそれぞれ退官・退任なさった毛利忍先生と木花光先生による講演が行われました。豊富な臨床経験に基づく具体的な示唆に富むご講演で、若い先生方に非常に有益な例会講演となりました。10月の例会は東京都立墨東病院大久保佳子先生のご講演で「皮膚科医が遭遇する循環障害の診断と治療」との演題で、血管炎についての大胆かつ明快なご講演をい

いただきました。また、恒例の神奈川県皮膚科医会例会と共催された7月例会のテーマは「見直そう乾癬の病態と治療」で澤田俊一先生が担当幹事でした。

- ②学術講演会は東京医療センター皮膚科医長佐藤友隆先生による皮膚真菌症における臨床からの話題でご講演いただきました。
  - ③5回目をむかえた市民公開講座は小野田雅仁先生による「悩まず聞いて 毛の話」のご講演で、やや少なめの出席者でしたが多くの質疑応答が交わされ、大変有意義な講演会となりました。
  - ④横浜市医師会学術活動では、tvk健康最前線を澤田俊一先生、横浜市臨床医学学術集談会を浅井俊弥先生、また「みんなの健康—こんな時どうする」への寄稿を毛利忍先生にご担当いただきました。
  - ⑤また、増田智栄子先生が平成25年度横浜市医師会学術功労者表彰をお受けになりました。今後も県同様横浜市皮膚科医会において益々のご活躍を期待しております。
- 下記に、平成25年度の事業報告をまとめて記載しました。

## 【平成25年度横浜市皮膚科医会事業報告】

### ①例会について

#### 「134回例会」

日 時：平成25年4月13日（土）

会 場：関内新井ホール

参加者：58名

#### 【特別講演】

テーマ1：「皮膚科の臨床で私が気付いた些細な事」

講 師：横浜南部済生会病院皮膚科部長 木花 光先生

テーマ2：「横浜市民病院での20年間を振り返って」

講 師：横浜市立市民病院皮膚科部長 毛利 忍先生

#### 「135回例会」

日 時：平成25年7月7日（日）

会 場：関内新井ホール

参加者：135名

担当幹事：さわだ皮膚科 澤田俊一先生

テ ー マ：「見直そう乾癬の病態と治療」

#### 「136回例会」

日 時：平成25年10月17日（木）

会 場：関内新井ホール

参加者：63名

#### 【特別講演】

講 師：都立墨東病院皮膚科 大久保佳子先生

#### 「137回例会」

日 時：平成26年4月5日（土）

会 場：関内新井ホール

#### 【特別講演】

講 師：藤田保健衛生大学皮膚科教授 松永佳世子先生

### ②学術講演会について

#### 「横浜市皮膚科医会講演会」

日 時：平成25年5月16日（木）

テ ー マ：「皮膚真菌症：臨床からの話題」

講 師：国立病院機構東京医療センター皮膚科医長 佐藤友隆先生

共 催：株式会社ポーラファルマ

参 加 者：47名

③第5回市民公開講座について

日 時：平成26年3月9日（日）

会 場：横浜情報文化センター 情文ホール

テ ー マ：「悩まず聞いて 毛の話」

講 師：おのだ皮膚科 小野田雅仁先生

参 加 者：51名

④横浜市医師会関係事業について

- ・tvk「健康最前線」「ありがとッ」

日 時：平成25年4月12日（金）、19日（金）

担 当：さわだ皮膚科 澤田俊一先生

「紫外線による皮膚トラブルと予防（1）（2）」

- ・第21回横浜市臨床医学学術集談会

日 時：平成25年12月7日（土）

テ ー マ：「風疹の流行を総括する—診断と鑑別診断を中心に—」

講 師：浅井皮膚科クリニック 浅井俊弥先生

- ・みんなの健康

平成25年11・12月号 No.238

「こんな時どうする『しろなまず 原因不明のお肌の敵』」

担 当：横浜市皮膚科医会会長 毛利 忍先生

（文責：渡辺知雄）



地域医会だより

## 鎌倉市皮膚科医会

医会は休会中です。

（文責：原 尚道）



地域医会だより

## 藤沢市皮膚科医会

日時：平成25年3月13日（水） 午後7時30分～

会場：湘南クリスタルホテル（旧ザ・ホテルオブラファエロ湘南迎賓館）

テーマ：「皮膚から診た脈管・膠原病（当院への紹介患者さんの症例報告も含めて）」

講師：藤沢市民病院 高橋一夫先生

日時：平成25年7月17日（水） 午後7時30分～

会場：グランドホテル湘南

テーマ：「アトピー性皮膚炎診療のポイント」

講師：聖マリアンナ医科大学皮膚科教授 相馬良直先生

日時：平成25年11月20日（水） 午後7時30分～

会場：湘南クリスタルホテル（旧ザ・ホテルオブラファエロ湘南迎賓館）

テーマ：「接触皮膚炎 update ～日常診療で役立つ接触皮膚炎についてお話しいたします～」

講師：藤田保健衛生大学医学部皮膚科学講座准教授 矢上晶子先生

（文責：小林誠一郎）



地域医会だより

## 川崎市皮膚科医会

### 第11回定時総会・第17回例会学術講演会

平成25年10月2日（水）にホテル精養軒（武蔵小杉）にて第11回川崎市皮膚科医会定時総会・第17回川崎市皮膚科医会例会学術講演会を開催しました。

総会は望月明子会長の挨拶の後、石橋正史先生（日本鋼管病院皮膚科部長）が議長として選出され、第1号議案平成24年度会務報告に関する件以降第5号議案役員人事に関する件まで円滑に承認され無事終了しました。

講演会は宮川俊一先生（川崎市立川崎病院皮膚科部長）の座長で天谷雅行先生（慶應義塾大学医学部皮膚科学教室教授）に「皮膚バリアを可視化する—3次元、4次元の世界から見えてくる皮膚疾患—」という演題でご講演いただきました。

近年その重要性が再確認されている皮膚のバリアの構造をわかりやすく解説いただき、参加いただいた多数

の先生方にもとても役立つ講演会でした。

#### 他医会との合同講演会

川崎市皮膚科医会は、川崎市医師会の他の医会と共催で共通分野・境界分野における興味深い演題について、合同で講演会を行っております。主な活動は以下の通りです。

##### 【小児科医会と共催】

日 時：平成24年1月6日（金）

講 師：塩原哲夫先生

テーマ：「アトピー性皮膚炎のスキンケアと外用療法」

##### 【内科医会と共催】

日 時：平成24年6月29日（金）

講 師：相原道子先生

テーマ：「蕁麻疹—発症のメカニズムと最近の蕁麻疹」

##### 【外科医会と共催】

日 時：平成25年4月24日（水）

講 師：清 佳浩先生

テーマ：「表在性真菌症の診断と治療」

今年も6月に西山茂夫先生をお招きして耳鼻科医会との合同講演会を行う予定です。

#### 川崎市市民公開講座ならびに皮膚の健康相談

平成23年より、川崎市医師会共催、川崎市後援で皮膚の日の頃に市民公開講座を行っております。

##### 【第1回】

日 時：平成23年11月6日（日）

講 師：山本一哉先生

テーマ：「すべすべ肌で暮らすには—赤ちゃんからお年寄りまで—」

##### 【第2回】

日 時：平成24年11月4日（日）

講 師：山本一哉先生

テーマ：「素晴らしい素肌作り—かゆみ・カサカサさようなら—」

##### 【第3回】

日 時：平成25年11月3日（日）

講 師：清 佳浩先生

テーマ：「これって水虫？ ～水虫に対する質問にすべてお答えします～」

公開講座・皮膚の健康相談とも市民に好評で、これからも引き続き行っていきたいと思っております。

（文責：井上奈津彦・望月明子）

○ ○ ○ ○ ○  
地域医会だより

## 三浦半島皮膚科懇話会 横須賀市医師会皮膚科部会

第45回三浦半島皮膚科懇話会・第28回横須賀市医師会皮膚科部会 学術講演会

日 時：平成26年2月1日（土）  
会 場：メルキュールホテル横須賀4階「ヴェルサイユ」  
共 催：三浦半島皮膚科懇話会  
横須賀市医師会皮膚科部会  
横須賀市医師会  
マルホ株式会社  
製品紹介：抗ヘルペスウイルス剤 ファムビル錠250mg マルホ株式会社  
特別講演：「アトピー性皮膚炎と経皮感作の最近の知見」  
講 師：横浜市立大学大学院医学研究科環境免疫病態皮膚科学  
相原道子先生  
座 長：金丸皮膚科院長 金丸哲山先生



近年、アトピー性皮膚炎の発症因子として皮膚バリア機能異常が重要視されている。バリアは皮脂、角層、表皮のタイトジャンクションに分けられ、角層では角層細胞、cornified envelope、角質細胞間脂質が重要な役割を果たす。顆粒層のケラトヒアリン顆粒内に存在するプロフィラグリンは角化とともに切り出されて角層細胞ではフィラグリンとなり、最終的に分解されて天然保湿因子となる。2006年に、尋常性魚鱗癬患者にみられるフィラグリン遺伝子変異がアトピー性皮膚炎患者の一部でみられることが明らかにされて以来、フィラグリン異常がアトピー性皮膚炎の発症に及ぼす影響について多くの研究が進められている。

これまでのヒトおよびマウスの研究からはフィラグリン発現異常などによるバリア障害のある皮膚から環境中のアレルゲンが侵入し、感作を誘導すると考えられる。乳幼児のアトピー性皮膚炎患者ではしばしば食物アレルギーを伴うが、その感作経路として経皮感作の重要性が指摘されており、経口感作はむしろトレランスを誘導する方向に働くと考えられるようになってきた。これまで、スキンケアがアトピー性皮膚炎の寛解期間を延長するという調査結果は国内外からいくつか報告されている。しかし、バリア機能障害をもつ乳児におけるスキンケアがアトピー性皮膚炎の発症や予防にどのような影響を及ぼすのかは、われわれが行なった短期間の解析はあるものの長期的なコントロール研究はないことから、今後の研究課題である。

近年、アトピー性皮膚炎の慢性化におけるペリオスチンの役割が注目されている。ペリオスチンは創傷治癒、線維化、組織リモデリングに関わる細胞外マトリックスのひとつであり、骨膜、歯根膜、皮膚、心臓などに発現している。I型コラーゲンやファイブロネクチンなどの他の細胞外マトリックスと結合して組織の硬度増強、構造維持に関与するほか、マトリセルラー蛋白として細胞に結合し、細胞を活性化する。皮膚ではTh2型サイトカインであるIL-4/IL-13の刺激により線維芽細胞から産生・分泌され、ケラチノサイト上の $\alpha$ vインテグリンと反応し、TSLPなどの炎症誘発性サイトカインの産生を誘導する。その結果、Th2型免疫反応がさらに促

進され、アトピー性皮膚炎の難治化に繋がると考えられている。当科の研究では紅皮症や苔癬化をきたした重症アトピー性皮膚炎患者の血液中にペリオスチンが高値であったことから、今後難治化の指標として有用であると期待される。

コラーゲントリペプチド (collagen tripeptide ; CTP) はみずみずしい皮膚を保つことができる健康食品として市販され、主として高齢の女性に摂取されている。CTPはコラーゲンの分解産物であり、分子量約280のアミノ酸のユニットで、グリシン-X-Yの構造をもつ。動物実験では、経口摂取したCTPが代謝されずに皮膚に移行し、真皮に分布することが確認されている。CTPはヒト線維芽細胞のコラーゲンおよびヒアルロン酸産生を促進すると報告されており、それによる保水能の促進が皮膚における作用につながると考えられる。我々の研究では乾皮症モデルマウスにおける頻回の搔破行動と表皮内神経伸長がCTPを3日間経口投与することにより、低下した経表皮水分蒸散量 (TEWL) の回復とともに、表皮内の神経の伸長と搔破行動を抑制した。それとともに、マウス皮膚では神経成長因子 (NGF) の産生抑制と神経の伸長を抑制するセマフォリン3A (Sema3A) の産生亢進が観察された。これはCTPがSema3AとNGFの産生調節を介してかゆみの神経伸長に影響を及ぼすことにより、かゆみを抑制することを示している。その作用機序については、CTPの直接的作用か間接的作用かは明らかではないが、最近、ヒアルロン酸は表皮の増殖を促すことが明らかにされたことから、CTPによって産生が亢進したヒアルロン酸が表皮細胞に作用してSema3AとNGFの産生調節を行う可能性が示唆されている。

(文責：金丸哲山)



地域医会だより

## 小田原皮膚科医会

### 1. 小田原医師会・足柄上医師会合同学術講演会

日 時：平成25年11月14日 (木)

会 場：報徳二宮神社 報徳会館

テーマ：「皮膚科 Clinical Question」

講 師：北里大学名誉教授 勝岡憲生先生

座 長：日下部皮膚科医院長 日下部芳志先生

参加者：36名

### 2. 小田原皮膚科医会学術講演会

日 時：平成26年2月3日 (月)

会 場：報徳二宮神社 報徳会館

テーマ：「皮膚の悪性腫瘍—診断から治療まで—」

講 師：北里大学医学部皮膚科診療准教授 高須 博先生

座 長：日下部皮膚科医院長 日下部芳志先生

参加者：8名

(文責：相川洋介)



地域医会だより

## 茅ヶ崎医師会皮膚科部会

### 【講演会】

日 時：平成25年11月11日（月）

会 場：茅ヶ崎ラスカ 6階サロン

テーマ：「皮膚アレルギーをめぐる『とっておき』の話題」

講 師：京都大学皮膚科学教授 宮地良樹先生

（文責：小野秀貴）



地域医会だより

## 平塚市医師会皮膚科部会

第62回例会 テーマ「悪性黒色腫：話題の免疫療法の最前線～治療の現状と将来の展望について～」

日 時：平成25年 5月22日（水）

会 場：平塚プレジール

参加者：36名

司 会：平塚市民病院 木花いずみ先生

・製品紹介（午後6時50分～7時）

「尋常性ざ瘡治療薬 ディフェリンについて」

・総会（午後7時～7時5分）

・基調講演（午後7時5分～7時20分）

講 師：東海大学医学部付属大磯病院皮膚科 田宮紫穂先生

テーマ：「にきびの原因と治療」

・特別講演（午後7時20分～8時20分）

講 師：慶應義塾大学皮膚科学教室 船越 建先生

### 【要旨】

進行期悪性黒色腫は治療抵抗性かつ予後不良な疾患で、抗癌剤治療の奏効率も10～20%であり、有効な治療がないのが現状である。

2011年に米国で承認を受けたBRAF阻害薬、CTLA-4阻害薬は、現在、日本で治験が行われているが、一時的な奏効が得られても完全寛解には至らず、治療費が高額であるばかりか、患者は長期の療養生活を余儀な

くされる。そのような中、米国NIHでは腫瘍浸潤リンパ球を用いた免疫療法が行われており、奏効率56%、完全奏効率20%と極めて高い効果を示している。加えて、この治療は抗癌剤などと異なり、1回のみでの投与でこれだけの効果が得られることから、実臨床においてこの治療への期待は大きい。

癌患者が医療に期待するのは延命のための治療ではなく治癒が可能である治療法の開発・臨床応用であり、そのためにも腫瘍浸潤リンパ球の安全かつ安定した培養方法を低コストで実現し、さらには医薬品として多くの患者に提供可能とする体制は必要である。

・症例報告（午後8時20分～8時30分）

平塚市民病院皮膚科 小幡祥子先生

「有茎性腫瘍を形成したamelanotic melanomaの一例」

・情報交換会（午後8時30分～9時30分）

共 催：平塚市医師会皮膚科部会、カルデルマ株式会社、塩野義製薬株式会社

## 第63回例会 テーマ「皮膚筋炎の診断・治療～最近の進歩について～」

日 時：平成25年9月25日（水）

会 場：グランドホテル神奈中平塚

参加者：36名

司 会：平塚共済病院 前田修子

・製品紹介（午後7時～7時10分）

「外用抗真菌薬ルリコンクリーム1%・液1%・軟膏1%」

・講演（午後7時10分～8時10分）

講 師：東海大学医学部内科学系リウマチ内科学 佐藤慎二先生

### 【要旨】

皮膚筋炎（Dermatomyositis:DM）患者血清中には、様々な自己細胞成分中に対する抗体が見出されており、これらの自己抗体は、日常診療において有用であることが知られている。これまで、DM患者血清中に見出される抗体として、抗アミノアシルtRNA合成酵素抗体（抗ARS抗体）、抗Mi-2抗体が広く知られている。近年、自己抗体研究の進歩により、DMに特異的に見出される新たな自己抗体がいくつか報告され、DMの診断・病型分類、治療法の選択・予後の推定などに大きな進歩がもたらされた。現在、これらの筋炎特異自己抗体の実臨床での実用化が進められ、近い将来にこれらの抗体測定が診療の現場で可能となると思われる。内科的治療に関しては、難治性筋炎に対する大量免疫グロブリン療法や抗CD20抗体であるリツキシマブによる治療、急速進行性間質性肺炎に対する副腎皮質ホルモンと免疫抑制薬の多剤併用療法などが注目されており、今後さらなる症例の集積が必要である。このように、近年のDMの診断・治療における進歩は、今後、診断精度の向上および予後の改善などにつながるものと期待されている。

・症例報告（午後8時10分～8時30分）

講 師：宮本皮フ科 宮本秀明先生

テーマ：「心臓カテーテル後の放射線皮膚炎」

講 師：平塚市民病院皮膚科 藤尾由美先生

テーマ：「皮膚筋炎症例の提示」

講 師：平塚共済病院皮膚科 山本悠飛先生

テーマ：「皮膚筋炎症例の提示」

・情報交換会（午後8時30分～9時30分）

共 催：平塚市医師会皮膚科部会、株式会社ポーラファルマ

## 第64回例会 テーマ「紫斑の見方～紫斑から全身疾患から見つける～」

日 時：2014年1月29日（水）

会 場：グランドホテル神奈中平塚

参加者：44名

司 会：たかはし皮膚科 高橋昇司先生

・製品紹介（午後6時50分～7時）

「抗ヒスタミン薬 ザイザル錠5mgについて」

・基調講演（午後7時～7時20分）

講 師：平塚共済病院皮膚科 前田修子

テーマ：「食物アレルギーと花粉症」

・特別講演（午後7時20分～8時20分）

講 師：東邦大学医療センター大橋病院皮膚科 齊藤隆三先生

### 【要旨】

紫斑は出血傾向の存在を目で見ることで見ることのできる症状であり、止血機構のいずれの部位に障害があるのかを検索することが重要である。

点状紫斑、斑状紫斑、溢血斑などの症状がみられ、紫斑病変の詳細な観察、病理組織学的検査などを加えて診断することが必要になる。そこにはOsler病のような血管の形態の異常、Ehlers・Danlos症候群等の結合組織異常、血管炎による全身の炎症性疾患、血液蛋白異常のような全身性疾患に伴う紫斑があり、全身臓器病変の存在を見落とさないことが必要になる。

また、臨床的に特徴のある紫斑として、老人性紫斑、機械的紫斑、慢性色素性紫斑などは臨床症状のみで診断は可能となる予後良好な疾患がある。診断のポイントなど臨床的な特徴について言及する。

・症例報告（午後8時20分～8時30分）

講 師：平塚共済病院皮膚科 武山絃子先生

テーマ：「IgA vasculitis（Henoch—Schönlein紫斑病）の経過中に胃癌が発見された1例」

講 師：平塚市民病院皮膚科 福島彩乃先生

テーマ：「ミノマイシンによる薬剤性血管炎への移行が疑われたアナフィラクトイド紫斑の症例」

・情報交換会（午後8時30分～9時30分）

共 催：平塚市医師会皮膚科部会、グラクソ・スミスクライン株式会社

（文責：前田修子）



地域医会だより

## 厚木市皮膚科医会

平成25年度報告

### 1. 皮膚科医会例会

#### 【平成25年前期】

##### ・第34回例会

日 時：平成25年5月30日（木）

会 場：レンブラントホテル

特別講演：「夏場に向かって注意すべき皮膚疾患—トビヒを中心に—」

講 師：聖隷三方原病院皮膚科部長 白濱茂穂先生

#### 【平成25年後期】

##### ・第35回例会

日 時：平成25年12月5日（木）

会 場：レンブラントホテル

特別講演：「食物アレルギー、アナフィラキシー対応について」

講 師：昭和大学医学部小児科学講座講師 今井孝成先生

### 2. 厚木市医師会医療フェスティバル

日 時：平成25年11月9日（土）

会 場：レンブラントホテル

ミニレクチャー：「高齢者の皮膚」を一般に向けて講演

### 3. 専門校医事業

4科（精神科、整形外科、産婦人科、皮膚科）に加え、内科、小児科、眼科、耳鼻科医師による取り組み。メール、FAX相談や講演などを行う。

（文責：小幡秀一）



地域医会だより

## 丹沢皮膚の会

現在、活動を休止しています。

（文責：山本 修）



地域医会だより

# 相模原市医師会皮膚泌尿器科医会

## 【学術講演会】

日 時：平成25年4月17日（水）

会 場：ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：「真菌症と真菌関連疾患」

講 師：帝京大学医学部附属溝口病院皮膚科教授 清 佳浩先生

日 時：平成25年6月5日（水）

会 場：ホテルザ・エルシー町田

テーマ：「尋常性ざ瘡治療ガイドラインに基づいた最新治療」

講 師：東京女子医科大学東医療センター皮膚科助教・医局長 澤田美月先生

日 時：平成25年9月18日（水）

会 場：ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：「乾癬治療のABC」

講 師：国立病院機構相模原病院皮膚科医長 朝比奈昭彦先生

日 時：平成25年11月20日（水）

会 場：ホテルセンチュリー相模大野

テーマ：「皮膚科で見つけた内科疾患」

講師：北里大学名誉教授 西山茂夫先生

日 時：平成26年2月5日（水）

会 場：ホテルザ・エルシー町田

テーマ：「高齢者のアトピー性皮膚炎」

講 師：東京都健康長寿医療センター皮膚科部長 種井良二先生

## 【研修旅行】

平成25年11月16日～17日 箱根離宮

## 【研修会】

北里大学皮膚科学教室のご厚意にて北里臨床皮膚フォーラム等に参加させていただきました。

（文責：大木 和）